

妙覚寺

[お茶とアート]

周辺にある他のいくつかの日蓮仏教の寺と同様に、妙覚寺は武将の豊臣秀吉（1537～1598 年）が日本を支配していた 1500 年代後半にこの場所へ移転されました。秀吉は当時の首都だった京都で、都市の要塞化や聚楽第と呼ばれる豪華な新しい御殿の建設など、大規模な公共事業を多数開始しました。

それらの事業に伴って京都の多くの寺に移転命令が出され、それまでは市内や郊外の至る所に散らばっていた寺が、特定の地区に集中することになりました。秀吉がそのようにした理由はたくさんありましたが、その中には、独立して政治的影響力を持っていた多くの寺に対する支配を確立することが含まれていました。

妙覚寺はそれらの高名な寺の 1 つで、貴族や有力な武将たちが頻繁に出入りしていました。秀吉の治世中もその後も繁栄を続け、1500 年代の最後の数年に聚楽第が取り壊された際にはその立派な門が妙覚寺に移築され、今でも寺の主要な出入口を示しています。

簡素で落ち着いた寺の庭は訪問者に公開されています。どんな季節でも美しいものの、特にカエデの紅葉を見る場所として有名です。訪問者は一杯のお茶と伝統的なお菓子をいただきながら景色を楽しむことができます。